

ゆめ  
あひ

# 瀬戸会館



9  
September

〒792-0821 新居浜市瀬戸町7-30  
TEL : 0897-41-5859(Fax 兼用)  
E-mail : [seto@city.niihama.lg.jp](mailto:seto@city.niihama.lg.jp)



## 夏祭り

地域の皆さんの笑顔が広がることを願って・・・  
・・・瀬戸会館にて恒例の夏まつりを催しました。

昨年はいいにくの天候で殆ど実施できませんでしたが、今年は晴天に恵まれ無事に開催する事ができました。終盤になりますと近年になく多くの方にご参加をいただき、盛況のうちに終わることが出来ました。またメインの盆踊りの後は、大抽選会でさらに盛り上がり締めさせていただきました。

昔を懐かしみながら子どもたちと一緒にこやかに踊る皆さんや見よう見まねで可愛らしく踊っている子どもの姿が見受けられ、うれしく拝見しました

自治会役員、子ども会や若葉会の皆さん、子育て真っ最中の地域の皆さん、ご参加いただいた地域の皆様、最後の後片付けまで協力していただいた皆さん、暑い中本当にお疲れ様でした。子どもから大人まで、一緒に楽しいひと時を過ごすことができました。ありがとうございました。

瀬戸・寿連自治会



## 第11回であい展開催

8月12日から14日までの3日間、開催しました。初日のオープニングセレモニーでは3つのサークルの発表。最初に登場したのは、バレエ教室の5人のかわいい妖精たち。愛くるしい踊りに会場の空気は一気に和みました。続いて登場したのは、艶やかな衣装をまとった5人の女性たち。南国的で陽気な「フラダンス」の踊りに会場はいっそう盛り上がりました。最後の締めは、社友会歌声のみなさん。「川はともだち」、「とうだいもり」、「芭蕉布」、「愛媛の歌」、「ふるさと」の5曲の美しい歌声に会場は聞き入っていました。



1階会場では、泉川保育園・東田保育園・泉川小学校・泉川中学校の児童生徒の絵画作品。社友会PC、リトミック、瀬戸児童館の活動報告。日頃、瀬戸会館を利用しているサークル「てん刻」、「紙バンド」、「ポーセラーツ」、「ハンドメイド」、「若葉会報告」、「押し花」、「くるくる座布団」、「つまみ細工」、「組木細工」の作品を展示しました。いずれの作品も細かいところまで気を配って作られており、見に来てくださった方々は感心しきりでした。

また、今回「であい展」を開催するに当たり、人権啓発のメッセージを発信したいと考え、新居浜市在住の版画家・石村嘉成氏にお願いして、8点の作品を展示させていただきました。彼が独特の柔らかな感性で表現する動物版画の世界に、多く人が引き込まれていました。



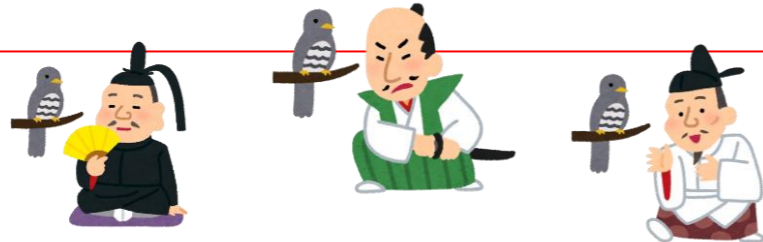
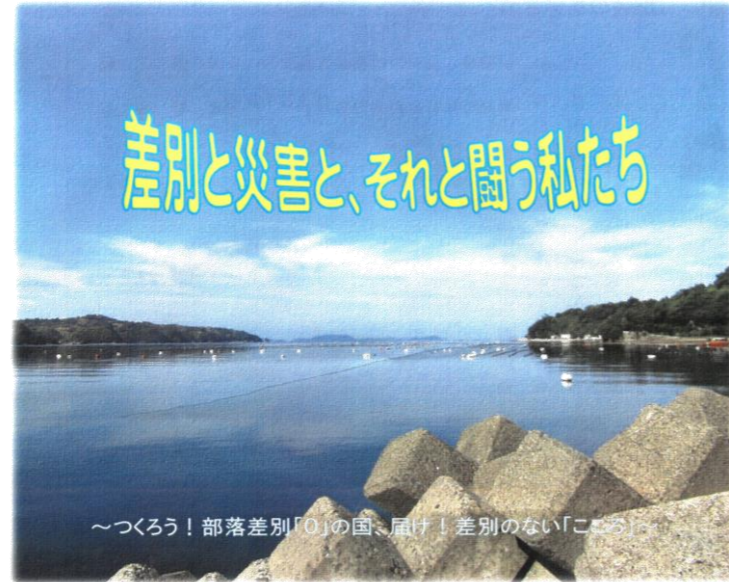




## 部落問題を考える フォーラムに参加して

8月21日砥部町文化会館にて「差別と災害と、それと闘う私たち」と題し3名の報告がありました。遠見子ども会の発表では「豪雨災害で優しかったお兄ちゃんが亡くなったことの寂しさ、自分が困ったとき、支えてくれたのは遠見子ども会があったから。」と力強く発表していました。

隣保館とは相談事業を充実させ行政機関に繋げるところであって欲しいと言われました。



「鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」 織田信長  
「鳴かぬなら 鳴かせてみせよう ホトトギス」 豊臣秀吉  
「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス」 徳川家康

パナソニック株式会社の創業者、松下幸之助さんは、三句の中で、どれに近いですか？」と質問されて、どれも当てはまらないと答えたそうです。

そして、「自分だったら」と、次の句を詠みました。

**「鳴かぬなら それもまたよし ホトトギス」**

自分の思い通りにならないことに対して、人間はそれぞれの対処法を試みます。真正面から徹底的に抵抗したり、柔らかく外堀から懐柔したり、のんびりと相手の気持ちが変わるまで待ったり、各人の個性によって対応の仕方は実に様々です。

ただ、ここでは「ホトトギスは鳴くものである」という前提の下で価値観が形成されています。「鳴かないホトトギス」を殺したり、無理やり鳴かせたり、勝手に鳴くまで待ったりしているのはホトトギスにとっては、迷惑なことであり、人間側からの一方的で傲慢な価値観でしかない、感じたのではないのでしょうか。

**経営の神様と言われている松下幸之助さんから、自分自身の価値観のみで判断評価を下さず、多様な価値観を尊重する姿勢を学ばせていただきました。**

## 人権のつどい日



今月の人権のつどいは、新居浜市出身で多方面で活躍されている高見知佳さんを講師にお招きして、人権朗読会&人権トークを行いました。

高見さんは、「ひとりじゃないの」「おこだてませんように」「ママがおこるとかなしいの」「にんげんごみばこ」「ありがとう」の5冊の絵本を朗読してくださいました。どの本も、子どもの視点から人権の大切さを考えることのできる素晴らしい本でした。その中から、「ひとりじゃないの～21世紀に生まれてくる子どもたちへ～」の一節を紹介します。

君はこれから生まれてくる場所を選ぶことはできない。  
それはおしりにくっついているほくろのようなもの。  
だけどこれから生きてゆく場所は選ぶことができるよ。  
ていうか、生きるってその場所を見つけだしてゆくことなんだ。



ぼくが子どもの頃、父にボールを投げると必ず返してくれた。  
成長してぼくは知った。  
世界には、何度ボールを投げても返してもらえない子がいる。  
戦争、飢え、人権侵害。  
けれど、人はひとりじゃない。  
きっと、みんなで人権を守る。

朗読の上手さもありませんが、一人一人の人権を大事にしたいという温かい想いで語られる朗読に参加者全員が引き込まれました。



## 9月の行事

★ゆめじゅく編集委員会  
3日(月) 13時30分～

★移動図書館青い鳥号

12日・26日(水) 14時～14時40分

★人権のつどい日

11日(火) 19時30分～21時

「部落差別問題学習って、どんな学習？」  
講師・鴻上基志

★回転木馬(瀬戸児童館)

12日(水) 10時30分～11時30分

★木曜会

20日(木) 19時30分～21時

★人権・同和教育関係行事

6日(木) 隣保館職員実務担当者研修会(西予市)

7日(金) 隣保館長等研修会(西予市)

